

国際会議参加報告（クリタ賞国際会議発表助成受賞者）

2025年9月29日～10月3日に、クライストチャーチ（ニュージーランド）で10th IWA-ASPIRE Conference and Water New Zealand Conference & Exhibitionが開催されました。平成28年度から始まった年会優秀発表賞受賞者国際会議発表助成（クリタ賞国際会議発表助成）を受けて、阿久戸 太陽氏（北海道大学大学院）、溝渕 和氏（東北大学大学院）が参加され研究発表を行いました。

10th IWA-ASPIRE Conference & Expo 2025に参加して

北海道大学大学院工学院 阿久戸 太陽

このたびは、日本水環境学会年会優秀発表賞受賞者国際会議発表助成（クリタ賞国際会議発表助成）を賜り、誠にありがとうございました。選考に関わられた関係者各位に、心より御礼申し上げます。

本助成により、2025年9月29日から10月3日にニュージーランド・クライストチャーチで開催された10th IWA-ASPIRE Conference & Expo 2025に参加いたしました。本会議は、アジア太平洋地域を中心に2年に1度開催される、水環境に関する国際会議であり、上下水処理、水資源管理、再生水利用および環境政策など、幅広いテーマが取り上げられました。今回は、“Empowering Tomorrow”をメインテーマとして、多くの参加者が集まりました。

私は、“Risk and Resilience”セッションにおいて、“Economically Feasible PFOS Treatment on Drinking Water by Combining Nanofiltration or Ion Exchange with Vacuum-UV”という題目で口頭発表を行いました。ペルフルオロオクタンスルホン酸（PFOS）は通常の浄水処理では除去が極めて困難な物質であり、その除去手法としてナノろ過およびイオン交換処理が提案されています。しかしながら、これらの処理により生成するナノろ過濃縮水およびイオン交換再生水に含まれるPFOSを分解除去する手法は確立されていません。したがって、本研究では、濃縮水および再生水中のPFOSを経済的に実行可能な範囲で分解除去できる真空紫外線ベースの促進還元処理の構築を試みました。発表後には質疑応答の場のみならず、多くの参加者の方々と活発な議論を交わすことができ、非常に有意義な経験となりました。

また、他のセッションにも積極的に参加し、浄水処理に関する最新の研究動向を学ぶとともに、各国の研究者や事業体が直面している課題およびそれらの解決に向けた取り組みを知ることができました。自身の研究をより多角的な視点から捉える貴重な機会となり、さらに、現地での議論を通じて今後の研究の方向性を明確にし、新たな研究アイデアの着想を得ることができました。

最後に、本研究の遂行にあたりご指導を賜りました北海道大学大学院工学研究院の松下拓教授、白崎伸隆准教授、松井佳彦教授（現・名誉教授）、ならびにご支援をいただいた環境リスク工学研究室の皆様、心より感謝申し上げます（写真1）。

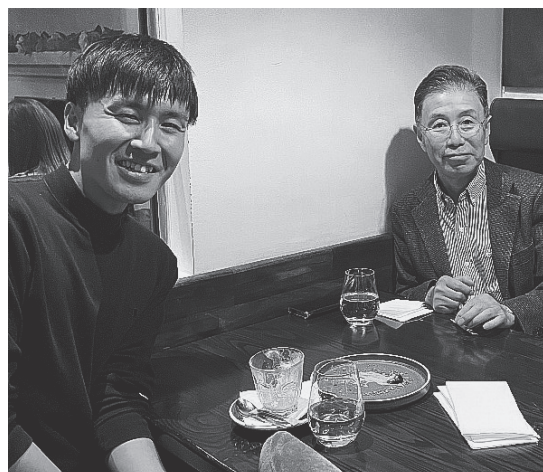


写真1 クライストチャーチにて松井先生と